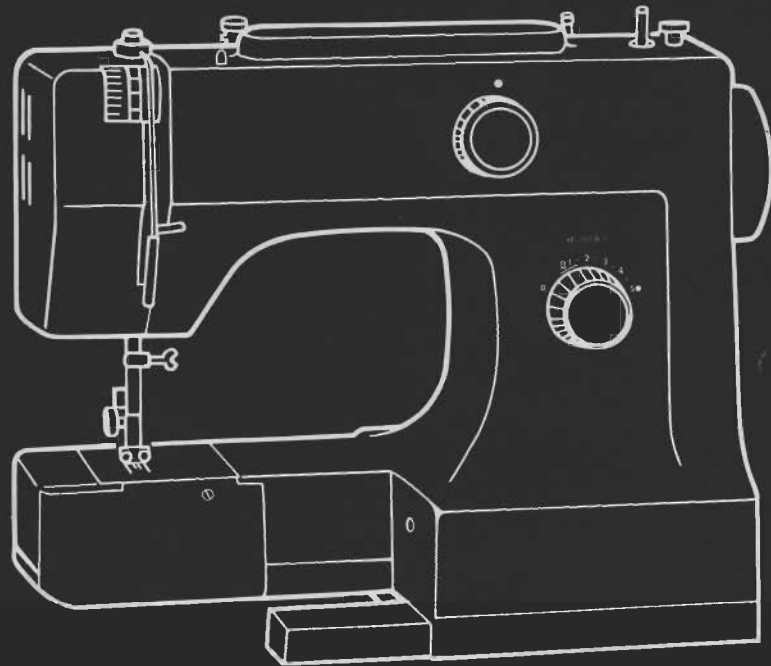


JUKI



スーパーオートジグザグミシン

PZM-301

取扱説明書

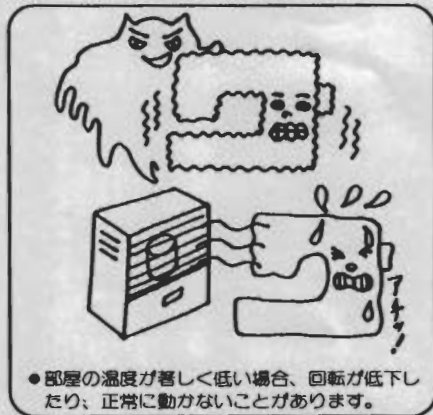
このたびは、ジューキコンパクトフリーアームジグザグ
ミシンを、お買い上げありがとうございました。

今日からあなたの、ホームソーイングプランの、パートナーとなりました当ミシンは、直線縫いはもちろんのこと、そでつけや、カフすつけ、ズボン等の筒縫いが簡単にできるフリーアームミシンです。更には、ダイヤルを合わせるだけで、ホームソーイングに適した数々の模様が美しく縫えますので、裁ち目かがり、ブラインドステッチ、ストレッチステッチ等々、十分に活用して頂けると確信しております。又、美しいボタン穴かがりも、ダイヤルの操作だけで簡単に縫える内蔵機能は、ホームソーイングをよりスピーディーにしてくれます。

このような優れた機能を楽しくご使用頂くためには、このミシンの正しい取り扱い方が基本となります。どうぞこの使用説明書を、よくお読み頂き、楽しいホームソーイングのパートナーとして、末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

正しくご使用いただくために、次の注意事項は必ずお守りください。

ご使用になる部屋の温度は
5℃～40℃の範囲でお使いください。



●部屋の温度が著しく低い場合、回転が低下したり、正常に動かないことがあります。

小さなお子様のいるご家庭では、手の届くところには置かないでください。



●特にコンセントにつないだままだと危険です。充分注意してください。

直射日光が当たる場所、湿気が非常に高い場所には長く置かないでください。



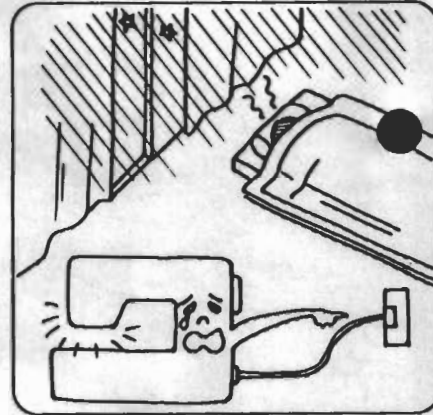
●変色、部品のサビ、動かない、などの原因になりますので特に注意してください。

ミネソラ油以外の油は
使用しないでください。



●食用油、髪油などを使いますと変質し、回転が著くなり遅くなる場合がありますので必ずミネソラ油をご使用ください。

お出かけや、おやすみになるときは必ず電源スイッチを切り、コンセントからプラグを抜いてください。



シンナーやその他の溶剤では
拭かないでください。

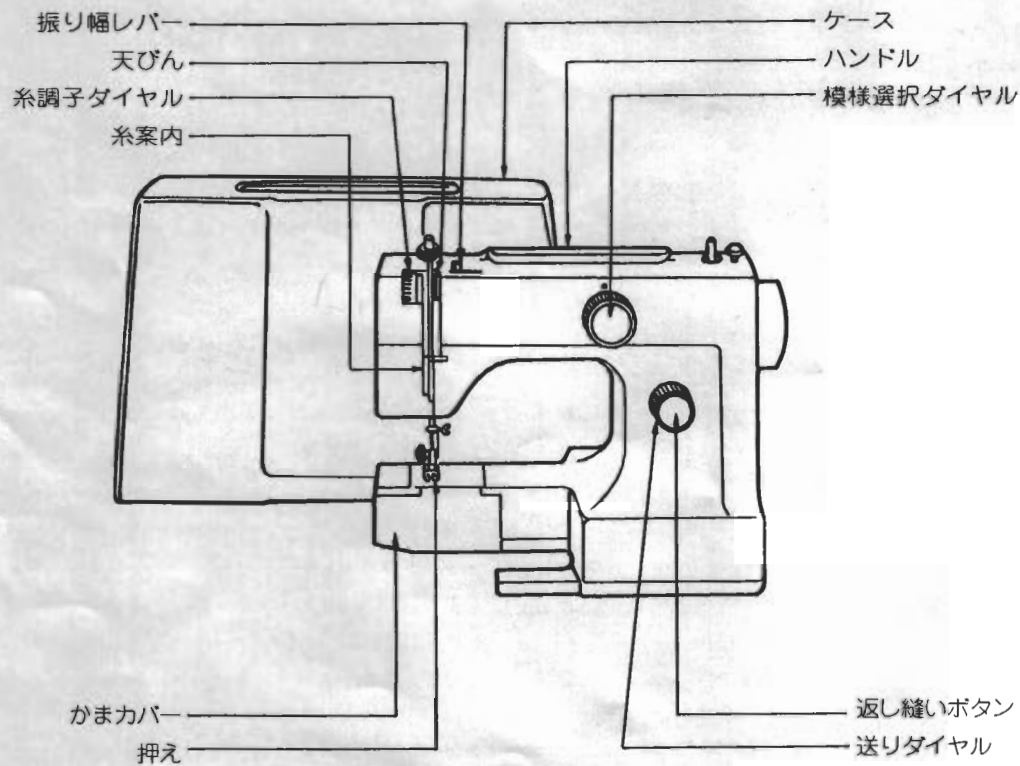


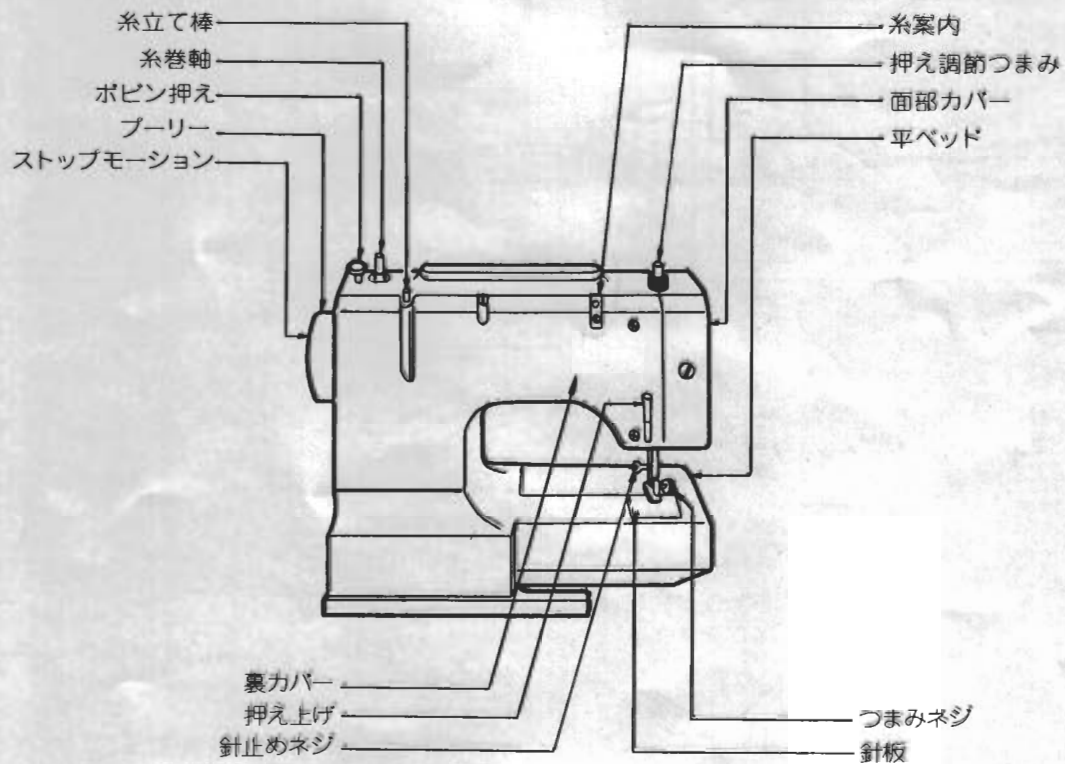
●塗料をいためたり、プラスチックが溶けたりします。乾いたやわらかい布で、汚れたところを中性洗剤少量で、よくふきとってください。

も く じ

各部の名称	1、2	布地・ミシン糸・ミシン針の関係とミシンの合わせ方	9
ハンドル	3	コントロールつまみ	10
平ベッドとフリーアーム	3	糸調子の出し方	10
電源	3	縫い方(模様選択)と操作方法一覧	11
付属品	3	縫い始め	12
押えの圧力調節のし方	4	縫い終り(縫い物のはずし方)	12
二段式押え上げ	4	ジグザグ縫い	12
針の取りかえ方	4	裁ち目がかり	12
ドロップフィード	4	ブラインドステッチ(まつり縫い)	13
押えの交換方法	4	伸縮縫い	13
直線用針板	5	突き合わせ	13
糸通し器の使い方	5	ファスナーつけ	14
上糸のかけ方	6	三つ巻き縫い	15
下糸の巻き方	6	棒定規の使い方	15
ボビンケースおよびボビンの取り出し方	7	ボタン穴かがり	16
ボビンケースに入れる方法	7	針の選び方	16
ボビンケースの入れ方	8	手入れ(掃除と注油)	17
下糸の引きあげ方	8	ミシンの調子の悪いとき	18
縫い方向の覚え方	8		

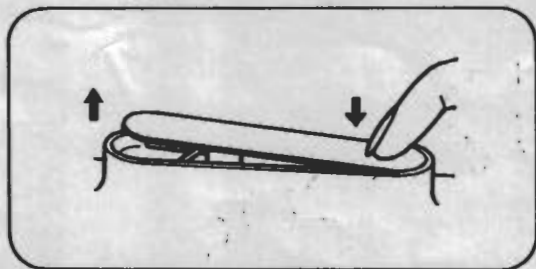
■各部の名称



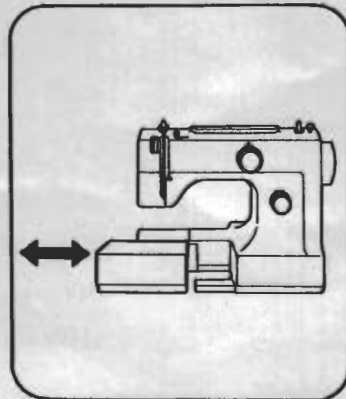


■ハンドル

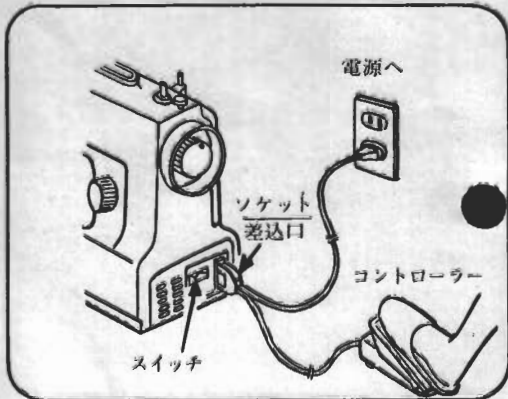
ハンドルの端を押しますと他端がもち上がります。ハンドルを引きあげて持ち運びます。



■平ベッドとフリーアーム



■電源 (ミシンを使用しない時はコンセントよりプラグをはずします)



■付属品



ボビン
5ヶ



フェルト



直線押え



ジグザグ
押え
(本体に取付)



ミツ巻押え



ボタン穴かがり
押え



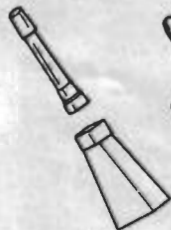
ファスナー
押え



ブラインド
ステッチ押え



裁ち目
かがり押え



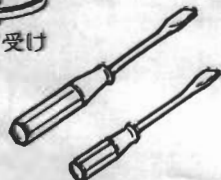
油さし



リッパー
(糸ほどき)



糸ゴマ受け



ドライバー大・小



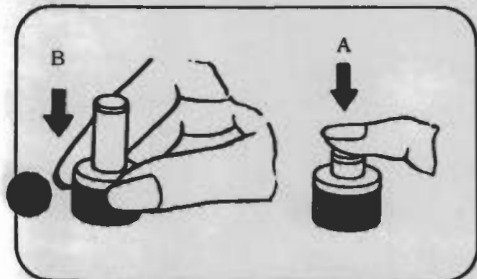
棒定規



針

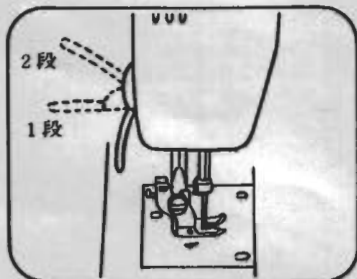
(11番…2本)
(14番…1本)

■押えの圧力調節のし方



- Aの部分を下に押すと押えの圧力が強くなります。
- Bの部分 (外輪) を押すと押えの圧力が弱くなります。
- 厚物、うす物および布の種類によって押える圧力を調整します。

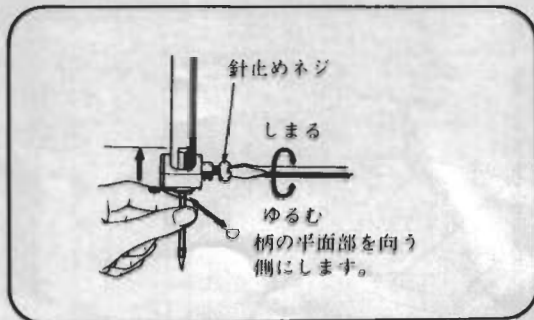
■二段式押え上げ



押え上げは2段式です。

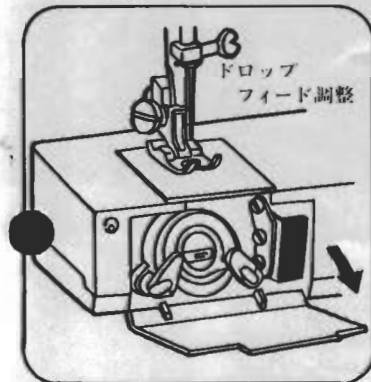
- 押え上げを1段あげた場合は上糸はゆるみません。
- 押え上げを2段まであげた場合は上糸はゆるみます。
- 用途によって使いわけします。

■針の取りかえ方



針は柄の平面部を向う側に向け、上方へ当たるまで差しこみ、針止めネジをかたくしめます。

■ドロップフィード



≡ ← 模様

この模様の方を押すと送り歯がさがり布地は送れません。



- 刺しゅうやつくろいもの (布地は送らない)

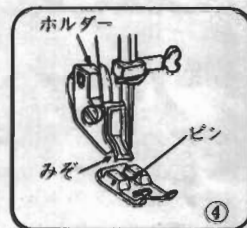
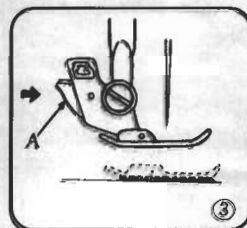
≡≡ ← 模様

普通に縫うときはこの状態にしておきます。



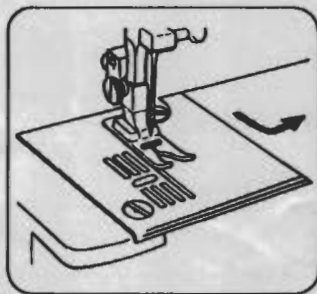
- 普通の縫製 (薄物、中物、厚物)

■押えの交換方法



- ① プーリーを手前に回して、針を最上にします。
- ② 押え上げで押えを上へあげます。
- ③ 押え替えボタン (A) を押すと押えがはずれます。
- ④ 押えのピンをホルダーのみぞの真下におきます。
- ⑤ 押え上げをさげると押えが取りつきます。

■直線用針板（別売）



直線用針板は薄地や伸縮性の生地に、直線縫い、ファスナーつけ、三つ巻き縫いなどを、より美しく縫い上げるために使用します。

針板の取りかえ方

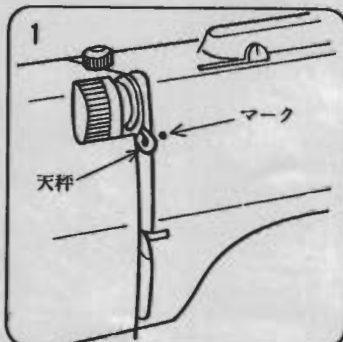
- ① 押えを上にあげます。
- ② プーリーを手前に回して針を最上点にあげます。
- ③ 針板を直線用の針板と交換します。(カマカバーを開け針板の手前を上を持ち上げて手前に引くとはずれます)
- ④ 直線用針板をはめ込みます。

直線用針板使用上の注意

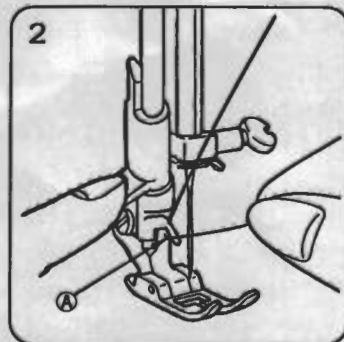
- ① 振り幅レバーはかならず直線の位置へセットして下さい。

☆直線用針板をお望みの場合はもよりの販売店にご相談下さい。

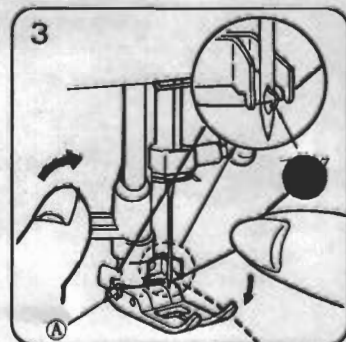
■糸通し器の使い方



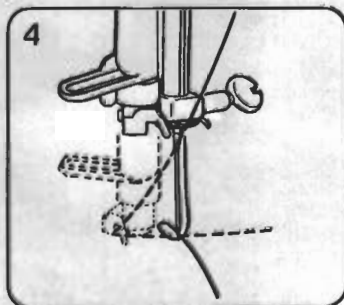
プーリーを手前に回して天秤を下から上に上げて本体のマークに合わせます。又は針を最上点に上げます。



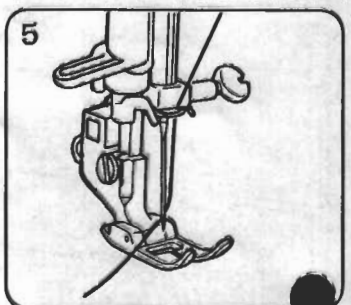
糸通しレバーをおろしながら①のところに内側から糸をかけます。
※糸は軽く引っ張ってください。



糸通しレバーをいっぱいまでおろし矢印方向に止まるまで回転させ糸をフックの下に持っていきます。
※糸を手前に軽く引き、フックに糸がかかっているか確認してください。



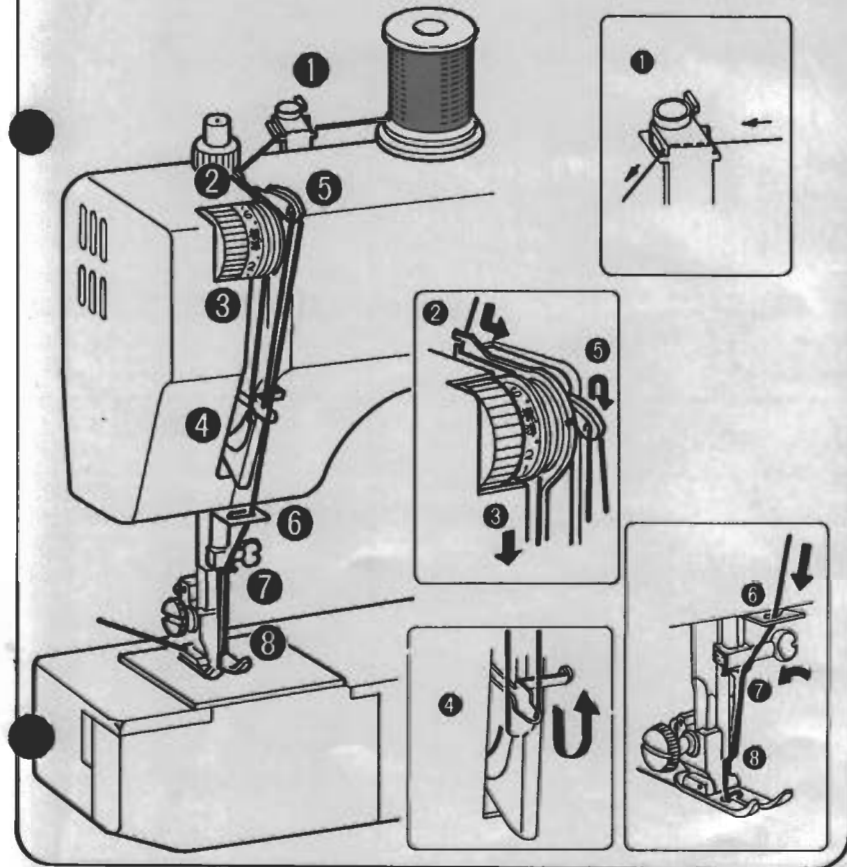
糸通しレバーを戻すと、糸は針穴に通っています。
※糸通しレバーを戻すとき、右手の糸をゆるめてください。



通した糸を10センチくらいひき出します。

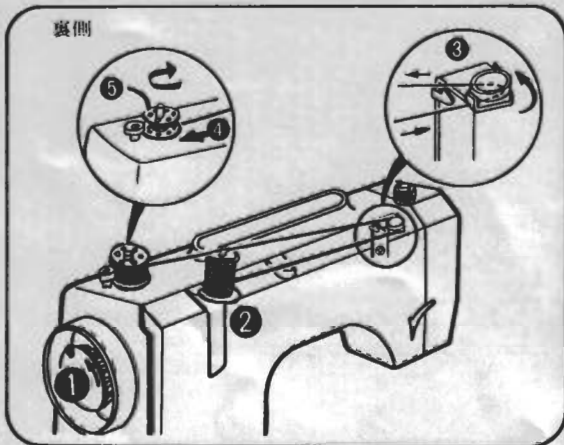
■上糸のかけ方

①から⑧の順に糸をかけていきます。
糸コマを手で軽く押えて掛けて下さい。

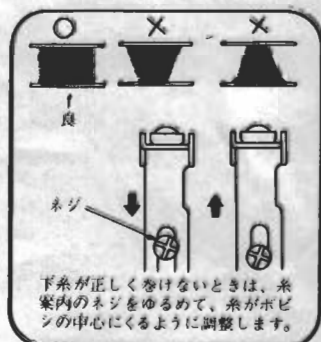


■下糸の巻き方

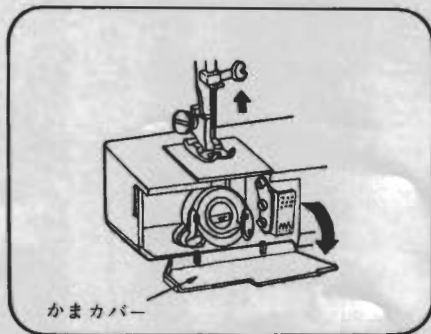
裏側



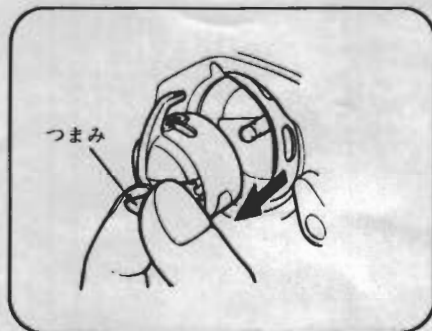
- ① ストップモーションをゆるめます。①
- ② 図の様に糸をかけて巻きます。②～⑤
- ③ 巻き終わりましたらストップモーションをしめます。



■ボビンケースおよびボビンの取り出し方



- ① 針をいちばん上にあげます。
次にかまカバーを開けます。

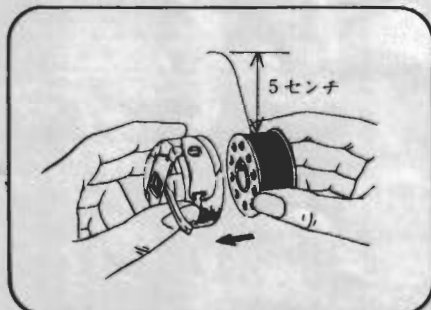


- ② ボビンケースのつまみを引きおこしてボビンケースを取り出します。

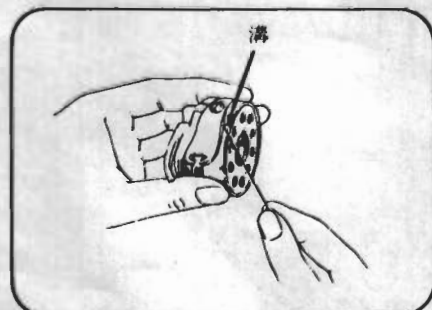


- ③ ボビンケースのつまみをとじて、
下向きにするとボビンがとり出せます。

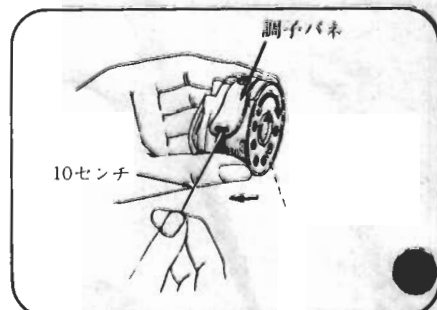
■ボビンをボビンケースに入れる方法



- ① ボビンから糸はしを向う側へ5cm
ほど引き出し、ボビンケースに入
れます。

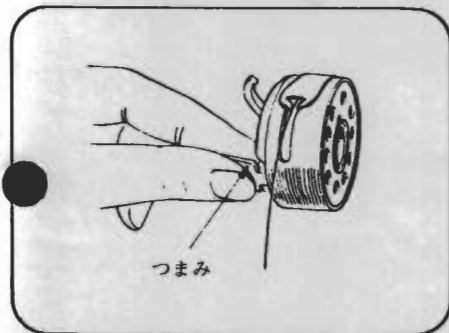


- ② 糸はしを溝に入れます。

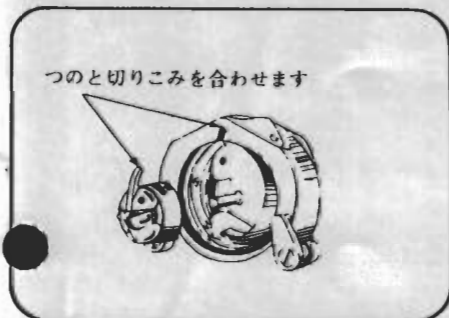


- ③ 糸を調子バネの下にくぐらせ10cm
ほど引き出しておきます。

■ボビンケースの入れ方

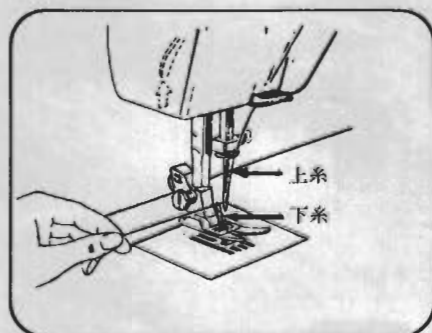


- ① 針をいちばん上にあげます。糸を手前にたらし、つまみをいっぱい起こし、ボビンケースを持ちます。

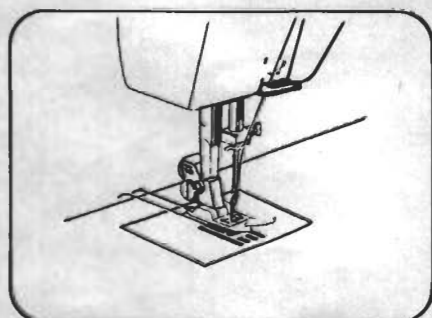


- ② ボビンケースは軸と切りこみに合わせて、突き当たるまで押しこみ、つまみをはなします。

■下糸の引きあげ方

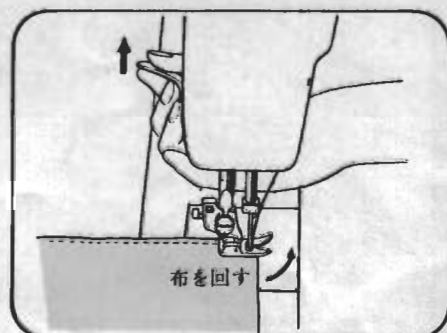


- ① 上糸を持ったままブーリーを手前にまわし、針を1回上下させて、針があがったところ（天びんがま上にきたところ）で止めて上糸を軽く引きますと、下糸が出てきます。

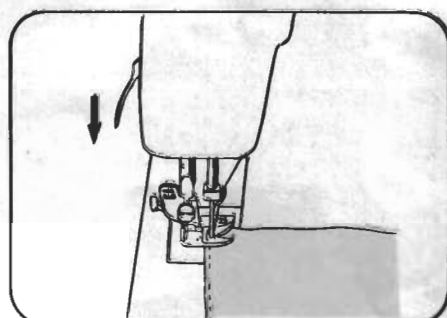


- ② 下糸を引き出し上糸とそろえて押えの下を通し、向こう側へ出します。

■縫方向の変え方

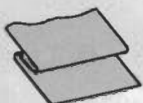
















- ① 針を布地におとしたまま押えをあげ、針を軸にして布地をまわし、縫い方向にセッドします。



- ② 押えをさげて縫い始めます。

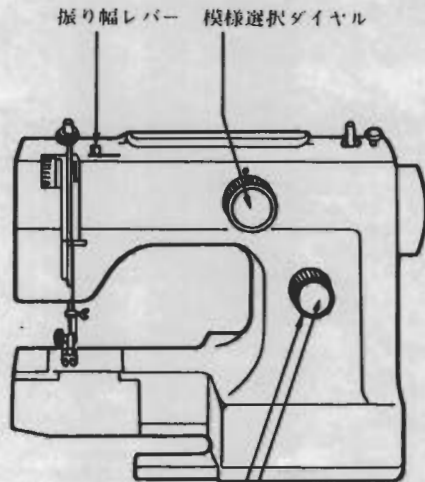
■布地・ミシン糸・ミシン針の関係とミシンの合わせ方

	布 地	ミシン糸	ミシン針	押えの強さ	縫い目の長さ		糸 調 子 の 安 目
					直線縫い	ジグザグ縫い	
			 HA×1	押え調節レバー 	送りダイヤル 		糸調子ダイヤル 
薄地縫い 	ローン	カタン糸——80番	(9番) 11番	 少し押し込む	1~3	1~5	ふつうよりやや弱く 
	ジョーゼット	絹ミシン糸——50番 化繊・細ミシン糸——90番	11番 (ニット針)				
	★トリコット	化繊ミシン糸——50・60番	11番				
	ウール・化繊布	絹ミシン糸——50番 化繊ミシン糸——50・60番	11番				
普通地縫い 	普通木綿・化繊布	カタン糸——60~80番 化繊ミシン糸——50・60番	11番	 中ほどまで押し込む	0.5~4	0.5~5	ふつう 
	★薄手ジャージー	絹ミシン糸——50番 化繊ミシン糸——50・60番	11番 (ニット針)				
	一般ウール・化繊服地	絹ミシン糸——50番 化繊ミシン糸——50・60番	11~14番				
厚地縫い 	デニム	カタン糸——30~50番 化繊ミシン糸——50番	14~16番	 いっぱい押し込む	0.5~4	0.5~5	ふつうよりやや強く 
	★ジャージー	絹ミシン糸——50番 化繊ミシン糸——50・60番	11~14番 (ニット針)				
	コート地	絹ミシン糸——50番	11~14番				

★印はニット針が適しています。(別売)

(ニット針…針の幹が細く、針穴が大きくえぐられています。目とびを 방지、伸縮性の布地に適します。)

■コントロールつまみ

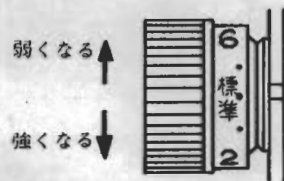


送りダイヤル 返し縫いボタン

(送りダイヤルの中のボタンを押すと返し縫いができます。)

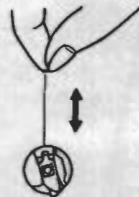
■糸調子の出し方

糸調子ダイヤルを回して上糸の調子を調整します。

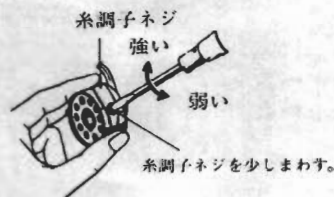


上糸調子だけで調整できなかった場合は下糸を調整します。

下糸調子(ボビンケース)

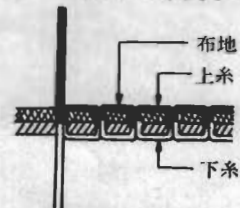


● 下糸の張力は、上下にふって自然に落ちるのを目安とします。

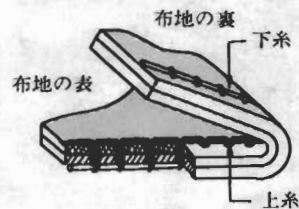


● ボビンケースの糸調子ネジを右へまわすと糸調子が強くなり、左へ回すと弱くなります。

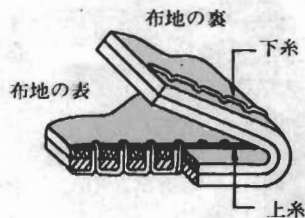
正しい糸調子



上糸の調子が弱い場合



上糸の調子が強い場合



■縫い方 (模様選択) と操作方法一覧 (①から順次操作して下さい。)

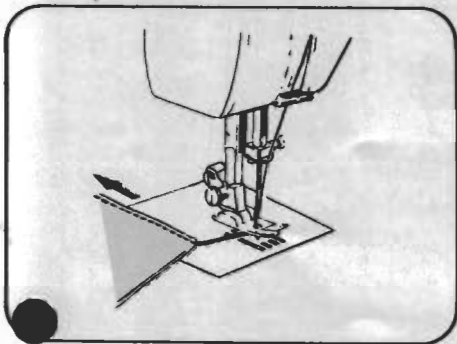
	縫い方	操作 ②	縫い模様	③ 振り幅レバー	① 送りダイヤル	押え	ドロップ フィード
1	直線縫い			直線 ジグザグ	0 5	 直線押え	
2	ジグザグ縫い			直線 ジグザグ	0 5	 ジグザグ押え	
3	フルオート ジグザグ			直線 ジグザグ	0 5	 ジグザグ押え	
4	スーパー ジグザグ			直線 ジグザグ	5	 ジグザグ押え	
5	直線伸縮縫い			直線 ジグザグ	5	 ジグザグ押え	
6	ボタン穴かがり			直線 ジグザグ	0 1	 ボタン穴かがり押え	

●縫い始め

*縫い始めの要領

- ① 糸を正しく通し、天びんがいちばん上になったところでミシンを止めます。
- ② 上糸と下糸をそろえて押えの下から向うへ10cmほど出しておきます。
- ③ 布の縫い始めを針下におき、押えをさげます。
- ④ コントローラーを踏んで縫いはじめます。
- ⑤ 縫う布地の端切れで試し縫いをし、糸調子を確認します。

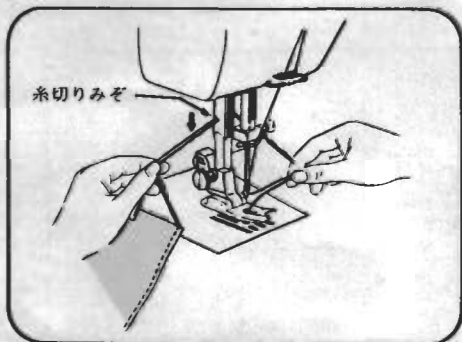
●縫い終り (縫い物のはずし方)



- ① 針をいちばん上の位置で止めて押えをあげ布地を向側に引き出します。

*縫い方のご注意

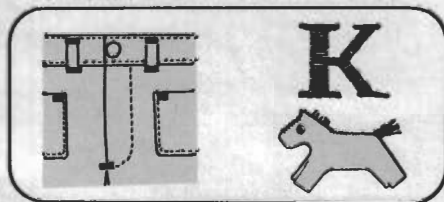
- ① プーリーは常に手前にまわし逆転させないでください。(かまの糸からみ防止)
- ② 裁縫中の手は布送りに合わせて布を導く程度にしてください。
- ③ ミシンが停止し針が布地を刺しているときは、振り幅レバーおよび模様選択ダイヤルを動かさないでください。(針が折れます)



- ② 布地について引き出された上糸と下糸をそろえ図のように糸切りみぞにかけて糸を切ります。

●ジグザグ縫い

密着縫いでイニシヤル模様やアップリケの縫いつけができます。ポケットの口縫いなど強固な縫いに利用できます。

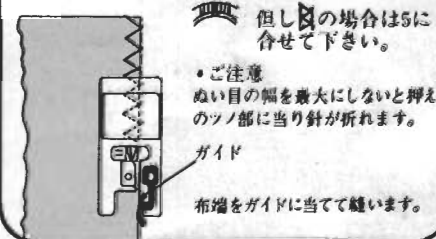


●裁ち目かがり

裁ち目のほつれやすい布に裁ち目かがりをしますとほつれません。

○裁ち目かがり押えを使う場合

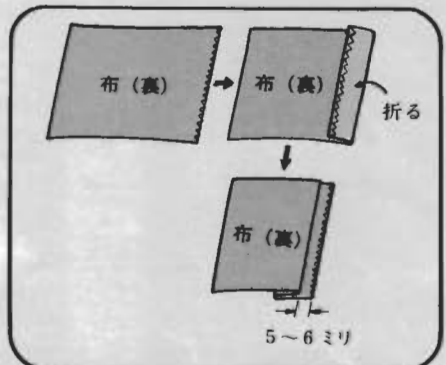
1. 模様選択ダイヤルは または に合わせます。
2. ぬい目の幅は 最大(右端)にします。
3. ぬい目の長さを 2・3に合わせます。



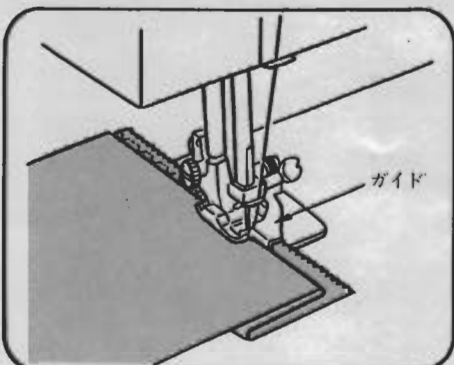
○ジグザグ押えを使う場合

- ・模様は ・ ・ が使えます。
- ・ぬい目の幅は 中～最大まで自由です。

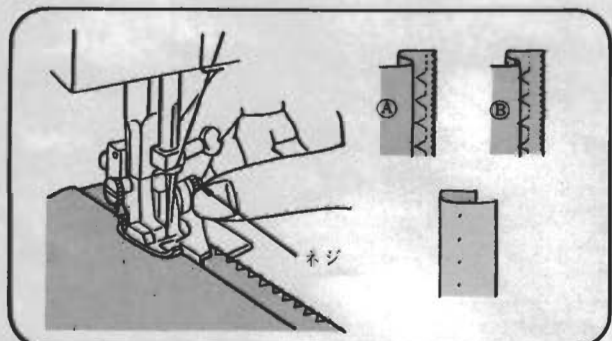
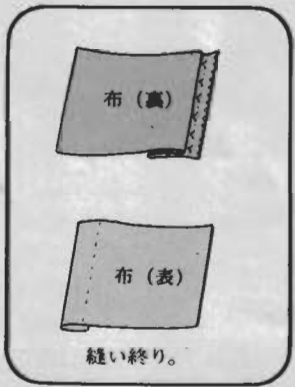
●ブラインドステッチ (まつり縫い)



① 布端を裁ち目かがりして、布地を2つ折り、もう一度折ります。

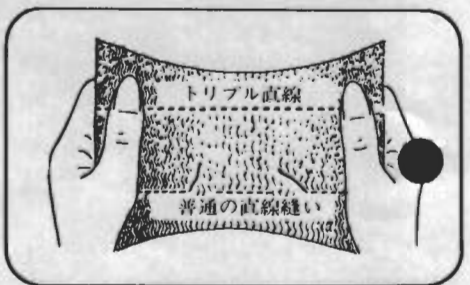


② ブラインドステッチ押えのガイドを折り山にピッタリ当てて縫います。



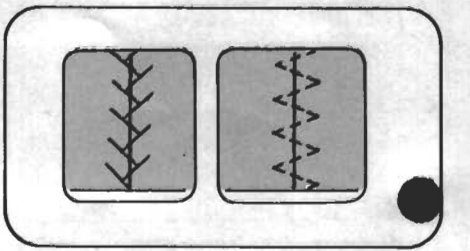
③ 針が折り山にかかっていないとき①はネジを手前に回すと深くなります。針が折り山にかかりすぎるとき②はネジを反対に回すと浅くなります。

●伸縮縫い



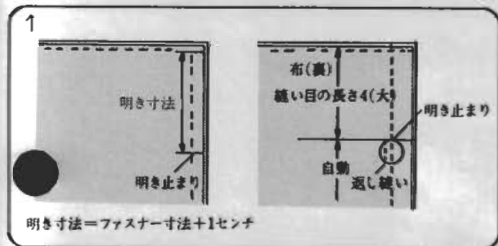
伸縮素材の縫製には |||| (直線) や ≡≡ (ジグザグ) の模様で縫いますと、素材が伸びた場合でも縫い糸が切れる事はありません。

●突き合わせ

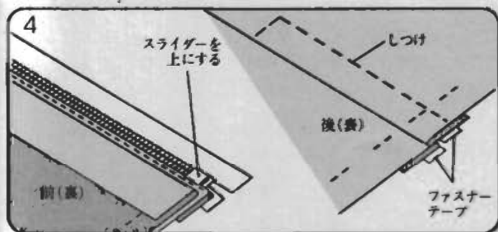


振り幅最大で上図の模様を利用する事によりしっかりと突き合わせ縫いができます。

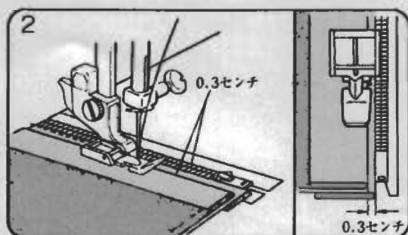
●ファスナーつけ



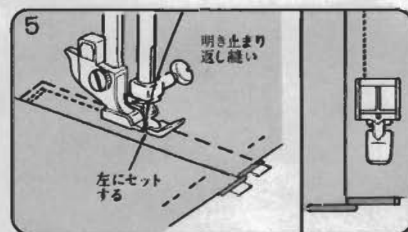
ファスナー明きの寸法をたしかめます。
布地を中表に合わせ布端より明き止まりまで大きな縫い目で縫い、明き止まりで縫い目の長さを自動に変えて返し縫いをし、所定の位置まで縫います。



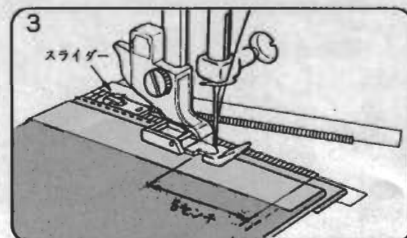
後ろ脇が縫い終わったら、スライダを上を引きあげて、さらに上に倒し、前布をファスナーのかぶせます。
かぶせた布とファスナーテープをしつけで止めます。



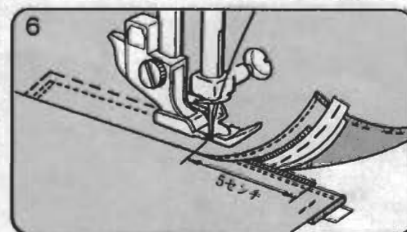
ファスナー押えの右側にセットし押えの端をムシのきわに当て後ろ脇にファスナーの片方をつけます。



前脇につけるときは明き止まりを返し縫いして、押えの端をスライダのきわに当て、0.7~1センチのミシンをかけます。

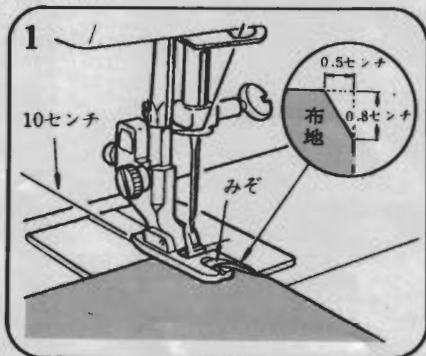


ファスナーの端から5センチ程手前でいったんミシンを止め、針をいちばん下までさげてから押えをあげてファスナーのスライダを図のようにさげ、押えをおろして端まで縫い止めます。

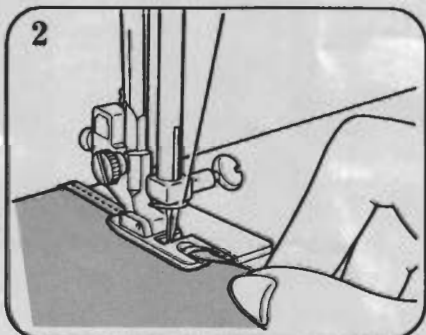


ファスナーの端から5センチ程手前でいったんミシンを止め、針をいちばん下までさげてから押えをあげて1で縫った大きな縫い目の部分のみほどこきます。スライダを押えより下までおし開き押えをさげて端まで縫い止めます。

●三つ巻き縫い
●縫い方

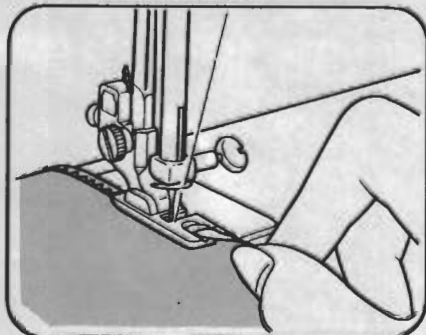


布地を巻き込みやすくするため角を少し切り、押えのうず状のみぞの中に、布地を針のとどくところまで入れてから、針をおろして押えをさげます。



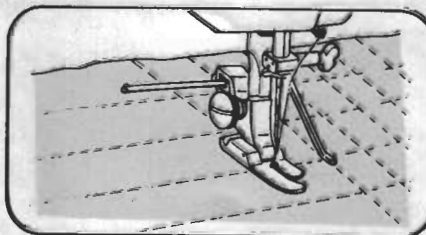
上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3~4回まわし、正しく巻き込まれましたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにして縫います。

●ジグザグ縫いの場合



ジグザグ縫いの場合は、振り幅を2にし、直線と同じ方法で縫います。ハンカチ、スカーフなどの縫い代をかけるのに最適です。

●棒定規の使い方

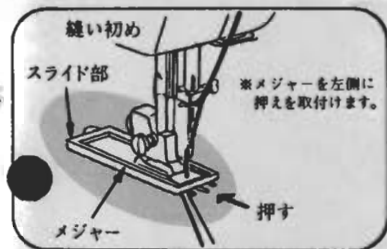


- ① 棒定規の端を押えホルダーのスプリングの中へ差し込みます。
- ② 棒定規を動かして縫い目と縫い目の間隔を調節します。

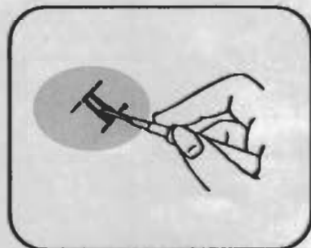
●ボタン穴かがり



模様選択 ダイヤル	縫 目	縫 い 方 ダイヤル：模様選択ダイヤル
1		① ダイヤルを1に合わせます。 ② 右側のかがり縫いをします。 ③ 針を布の上にあげます。
2		④ ダイヤルを2に合わせます。 ⑤ かん止めを5～6針縫います。 ⑥ 針を布の上にあげます。
3		⑦ ダイヤルを3に合わせます。 ⑧ 左右のかがりの長さがそろうまで縫います。 ⑨ 針を布の上にあげます。
4		⑩ ダイヤルを4に合わせます。 ⑪ かん止めを5～6針縫います。 ⑫ 針を布の上にあげます。
4	止め縫い	⑬ 振り幅レバーを直線に合わせます。 ⑭ 2～3針止め縫いをします。

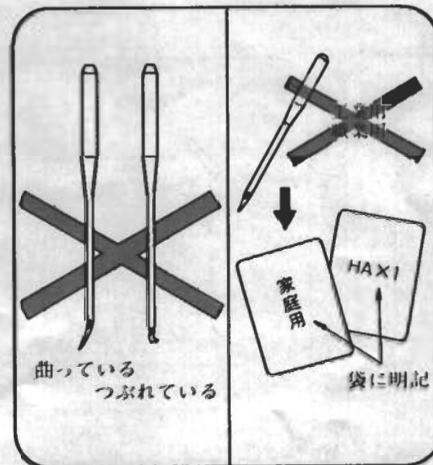
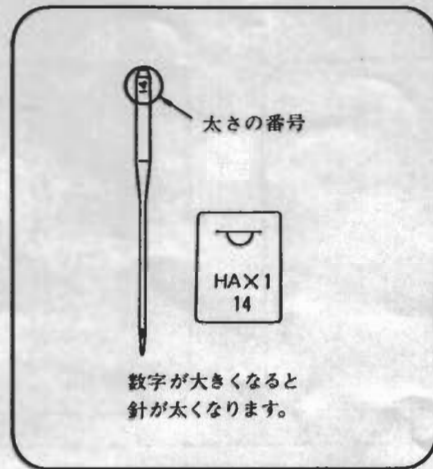


布をセットする前にボタン穴かがり押えの
スライド部を後ろいっぱいに押します。



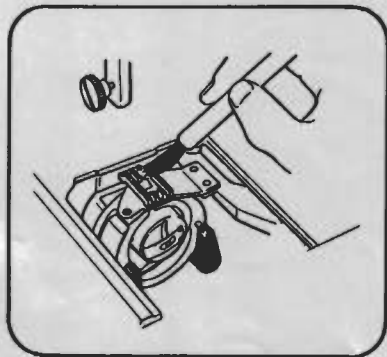
○リッパー(糸ほどき)で縫い目を
切らないように、真ん中を切り
開きます。

●針の選び方



■手入れ（掃除と注油）

送り歯の掃除



かまの分解方法・掃除

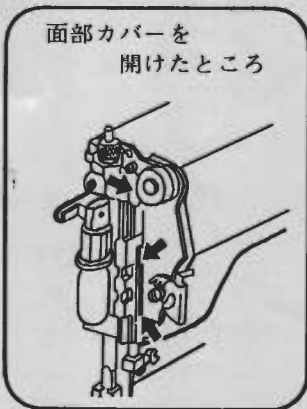
A: つまみ
B: 中がま押え
C: 中がま

① 針棒を最上位置にあげます。
② ボビンケースをはずします。
③ ミシンを向う側へ倒します。
④ つまみAを左右にひらきます。
⑤ 中がま押えをはずします。
⑥ 中がまとクリーナーをとります。

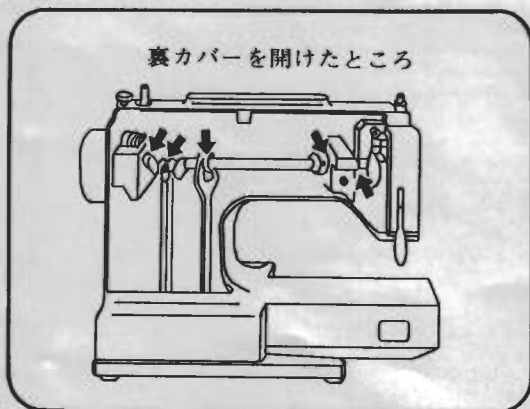
大かま内面の溝のすみのほこりをきれいにふきとり中がまに一滴油をさしても通りに組みつけます。

注油（矢印のところに1～2滴注油してください。）

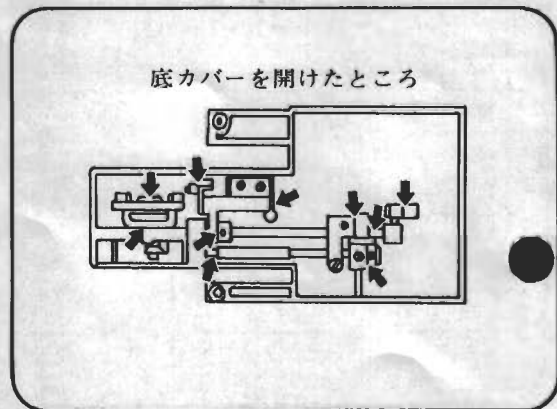
面部カバーを開けたところ



裏カバーを開けたところ



底カバーを開けたところ



■ミシンの調子が悪いとき

調子よく縫えない状態	原因	調整方法	ページ
布が送らない場合	●ドロップフィードが(㊦)になっているとき。	ドロップフィードを正常の位置(㊧)にもどします。	4
	●ミシンが空転しているとき。	ストップモーション(ネジ)をしめます。	/
	●送りダイヤルが「0」の位置にあるとき。	送りダイヤルを1～5に合わせます。	/
	●押えの圧力が弱いとき。	厚物のときは押えの圧力を強くします。	4
針が折れる場合	●針のつけ方が間違っているとき。	正しく取りつけます。	4
	●針が曲っているとき。	新しい針に取り換えます。	4
	●布地を不当に引っ張ったとき。	布を引っ張ったり押えたりしないようにします。	/
	●針・糸・布地の関係が悪いとき。	布地に合った針・糸を使います。	9
直線縫いが悪く、上糸が切れる場合	●振り幅レバーが「！」にもどっていないとき。	正常な位置に合わせます。	/
	●糸のかけ方が間違っているとき。	正しくかけ直します。	6
	●糸が必要以外の所かららんでいるとき。	糸立棒、上糸案内等に糸がからまっていないうか確認します。	/
	●上糸の調子が強すぎるとき。	上糸調子を正しく直します。	10
	●針が曲っているとき。	新しい針に取り換えます。	4
下糸が切れる場合 縫い目がとぶ場合	●中がまに傷が生じたとき。	中签を取り換えます。	17
	●下糸の調子が強すぎるとき。	下糸調子を正しく直します。	10
	●針のつけ方が間違っているとき。	正しく取りつけます。	4
	●針が曲っているとき。	新しい針に取り換えます。	4
	●糸のかけ方が間違っているとき。	正しくかけ直します。	6
回転が重く、音が高い場	●糸くずが針板の下にたまっているとき。	送り歯を掃除します。	17
	●油がきれいているとき。	動く部分に注油します。	17
縫い物にしわがよる場合	●釜に糸くずがたまっているとき。	釜を掃除します。	17
	●糸調子が強すぎるとき。	上下糸とも糸調子を合わせます。	10
	●布地と針と糸が合っていないとき。	正しく合わせます。	9
	●押えの圧力が強いとき。	正しく合わせます。	4

JUKI

JUKI 株式会社

〒162 東京都調布市国領町6-2-1

☎03-3480-7112



044 H6.2